

参 考 資 料

- 1 整備の趣旨・目的
- 2 施設概要
- 3 沿革
- 4 組織
- 5 平成 25 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書
- 6 資料室のあらまし
 - (1) 資料室の概要
 - (2) 震災資料の収集・保存事業の経緯
 - (3) 資料室受け入れ図書件数、資料点数、閲覧件数
 - (4) 人と防災未来センターにおける調査の流れとデータベース（資料点数）の関連
- 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター
- 8 研修カリキュラム表
- 9 センター刊行物

参考資料 1

整備の趣旨・目的

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、わが国で初めて社会経済的な諸機能が高度に集積する大都市を直撃した直下型地震である阪神・淡路大震災の教訓を後世に残し、震災とその復興過程から得られた知識や知恵を世界に情報発信することによって、世界の災害対策に生かそうという「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想」がその開設の端緒となっている。

震災があった1995年の10月、政府の「阪神・淡路復興委員会」が、復興特定事業のうち極めて意義のあるものとして阪神・淡路大震災記念プロジェクトを提言。そして、国、県、神戸市、民間で同プロジェクト検討委員会が設置され、その後に設立された（財）阪神・淡路大震災記念協会（理事長＝石原信雄・地方自治研究機構理事長（設立当時））で、学識者、民間団体代表、行政代表で構成する同センター基本構想検討委員会を設置、1999年5月26日に基本構想（基本的考え方）が公表された。さらに6月には、有識者、行政などによる「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会」（会長＝新野幸次郎・神戸都市問題研究所長）を設置し、「阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想」を策定した。

同年12月、国の1999年度第2次補正予算で、メモリアルセンター施設整備費約60億円の2分の1にあたる約30億円が国庫補助金として予算措置され、2000年度以降の各年度においても、運営費補助が計上されることとなった。

さらに、政府の「阪神・淡路復興対策本部」の最後の会合が、翌2000年2月22日に開かれ、同センターの整備事業が復興特定事業に追加選定された。

「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想（基本的考え方）」によると、同センター構想は「人類史上初めての高齢社会下の大都市直下型地震による大災害であった阪神・淡路大震災により、我々は生命の尊厳やともに生きることの重要性、近代都市の脆弱性など、人類が営々と築き上げてきた20世紀文明に対する反省と教訓を得た」との認識を基に、「はからずも露呈した近代都市や近代文明の災害に対する脆弱さからは、『人と自然との共生』が、また復興過程でコミュニティやボランティアが果たした役割の大きさからは『人と人との共生』が、それぞれ重要な概念として認識されることになった。わが国は地震列島であり、将来、再び大地震が都市を襲う可能性を多分に有しており、震災から得られた反省と教訓を生かし、世界中で今後起こり得る同様の災害の防災と、それからの復旧・復興に貢献する義務がある。阪神・淡路地域こそ、世界における震災復興のフロンティアでありモデルであるとの自覚のもと、来るべき21世紀の世界に貢献し得る役割を担おう」との趣旨でまとめられた。

2000年度には、「展示・交流検討委員会」、「人材育成等検討委員会」を設置し、展示内容や、調査研究活動、人材育成等のソフトについて、各界の代表者等からの意見等をふまえて具体化に向けた検討を精力的に重ねていった。

さらに、「メモリアルセンターフォーラム」等の開催を通じて、一般県民等からの期待や意見についても把握し、委員会等での検討に供した。

そして、2001年1月に一期施設「防災未来館」の建築工事に着手し、翌2002年3月末に施設が完成し、4月21日に皇太子同妃両殿下をお迎えして、開館記念式典が執り行われ、4月27日から一般公開された。

さらに、2001年11月には二期施設「ひと未来館」の建築工事に着手し、2003年3月末



に施設が完成した。4月24日には、開館記念式典が防災担当大臣等のご参列のもと行われるとともに、翌25日には、「いのちの尊さと、ともに生きることの素晴らしさーひと未来館の展示がめざすものー」をテーマとした鼎談など開館記念イベントが開催された。

4月26日から一般に公開され、ここに阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターはグランドオープンに至った。

震災から復興が進むなか、防災未来館の展示については、センター開設後の時間経過に伴う復興への新たな課題と情報の追記、防災・減災に関する情報発信の強化等が必要となったため、2005年9月に学識者等で構成する「人と防災未来センター展示検討委員会」を設置し、展示更新内容について検討を重ね、2006年7月に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター展示検討報告書」をとりまとめた。

2007年には、その内容を踏まえて、一期施設「防災未来館」において展示のリニューアルを実施し、2008年1月9日から一般に公開した。

また、「ひと未来館」においては、阪神・淡路大震災の教訓としての「いのちの尊さ」や「共に生きることの大切さ」を伝える展示を行ってきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、2009年3月末をもって、ひと未来館としての展示を休止し、風水害に関する防災展示を充実する等の改修を経て、2010年1月8日から再オープンした。併せて、「防災未来館」を「西館」、また「ひと未来館」を「東館」と館の名称を変更したほか、入館料金体系を見直し、両館の一体的な展示運営を行っている。

参考資料 2

施設概要

1 施設概要

区 分	西館（旧防災未来館）	東館（旧ひと未来館）
施設概要	鉄骨造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階、塔屋 1 階 建面積：1,887.80 m ² 延面積：8,557.69 m ²	鉄筋コンクリート造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階 建面積：2,059.97 m ² 延面積：10,197.08 m ²
施設整備費	約 60 億円（国 1/2、県 1/2）	約 61 億円（県 10/10）
整備スケジュール	平成 12 年 3 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 1 月 建築工事着工 平成 14 年 3 月 完成 4 月 27 日オープン 平成 19 年 12 月 29 日 展示改修のため休止 平成 20 年 1 月 9 日 リニューアルオープン	平成 12 年 9 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 11 月 建築工事着工 平成 15 年 3 月 完成 4 月 26 日オープン 平成 21 年 4 月 1 日 展示運営を休止 平成 22 年 1 月 8 日 再オープン

2 建物内概念図（平成 26 年 3 月 31 日現在）

西 館			東 館	
	機械室	収蔵庫	機 械 室	
7F				
6F	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 事業部（事業課・普及課）研究部		（公財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構	
5F	事業部（運営課） 資料室		アジア防災センター 国際エメックスセンター 国際防災復興協力機構 国連国際防災戦略駐日事務所 国連人道問題調整事務所神戸事務所 瀬戸内海環境保全協会 地球環境戦略研究機関関西研究センター	
4F	展示部門（震災追体験フロア）		アジア太平洋地球変動研究ネットワークセンター 兵庫県立大学防災教育センター	
3F	展示部門（震災の記憶フロア）		展示部門（水と減災について学ぶフロア） 多目的スペース	
2F	展示部門 （防災・減災体験フロア）		通路	展示部門 （こころのシアター）
1F	総合案内、ロビー、ガイダンスルーム 等		レストラン・ ミュージアム ショップ	



参考資料 3

沿革

< 1999 年 (平成 11 年) >

- 2.17 (財)阪神・淡路大震災記念協会に「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想検討委員会」を設置
- 5.26 阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想のとりまとめ・公表
- 6. 2 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会の設立
- 6.12 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会専門委員会の開催
- 6.28 阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想のとりまとめ・公表
- 11.12 国土庁長官が記者会見で「メモリアルセンターの施設整備費について 11 年度補正において所要の補助金を計上する。運営費についても平成 12 年度以降の各年度において所要の補助金を計上する」旨発表
- 12. 9 国の平成 11 年度第 2 次補正予算 (11 月補正) が成立。メモリアルセンター施設整備費 (約 60 億円)、うち国庫補助金 (約 30 億円) が予算措置
- 12.24 メモリアルセンター運営費補助金 (12 年度分 63 百万円) が盛り込まれた国の平成 12 年度当初予算が閣議決定

< 2000 年 (平成 12 年) >

- 1.29 「阪神・淡路大震災メモリアルセンター設計プロポーザル選考委員会」の設置。第 1 回委員会を開催し、選考基準、プロポーザル作成要領を検討
- 2.22 「阪神・淡路大震災復興対策本部」最終会合でセンター整備事業が復興特定事業に追加選定
- 2.26 第 2 回選考委員会において、最適設計者を選定
- 3.22 1 期設計委託契約締結
- 5. 8 第 1 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.19 第 2 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.26 第 1 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 5.27 第 2 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 6.17 第 3 回「展示・交流検討委員会」開催
- 8.28 第 4 回「展示・交流検討委員会」開催
- 9.18 ヘルスケアパーク構想のうち県立のミュージアム部分をメモリアルセンター 2 期として整備することを決定
- 9.29 2 期設計委託契約締結
- 10.14 第 1 回メモリアルセンターフォーラム開催
- 10.27 第 5 回「展示・交流検討委員会」開催
- 12.12 第 3 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 12.27 第 1 回「人材育成等検討委員会」開催

< 2001 年 (平成 13 年) >

- 1. 6 1 期建築工事安全祈願祭開催 (工事着工)
- 1.15 センター長に河田恵昭京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授が
内定、発表
- 2.19 第 6 回「展示・交流検討委員会」開催
- 4.28 第 7 回「展示・交流検討委員会」開催
- 10.10 2 期建築工事発注
- 10.30 第 1 回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 10.31 第 1 回名称募集審査委員会開催
- 11. 9 2 期建築工事安全祈願祭開催
- 11.27 第 2 回名称募集審査委員会開催
- 12. 4 1 期展示工事安全祈願祭開催
- 12.11 第 1 回展示監修者会議開催
- 12.19 第 2 回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 12.19 2 期展示製作委託発注

< 2002 年 (平成 14 年) >

- 1. 7 正式名称を「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」に決定、発表
- 1.21 第 2 回展示監修者会議開催
- 3.31 1 期施設「防災未来館」完成
- 4.21 開館記念式典開催
- 4.23 開設記念シンポジウム開催
- 4.27 「防災未来館」展示一般公開

< 2003 年 (平成 15 年) >

- 3.31 2 期施設「ひと未来館」完成
- 4.24 開館記念式典開催
- 4.25 開館記念イベント開催
- 4.26 「ひと未来館」展示一般公開

< 2007 年 (平成 19 年) >

- 12.29 「防災未来館」展示改修のため休止

< 2008 年 (平成 20 年) >

- 1. 8 「防災未来館」展示リニューアル記念式典
- 1. 9 「防災未来館」展示リニューアルオープン (一般公開)

< 2009 年 (平成 21 年) >

- 4. 1 「ひと未来館」展示運営を休止

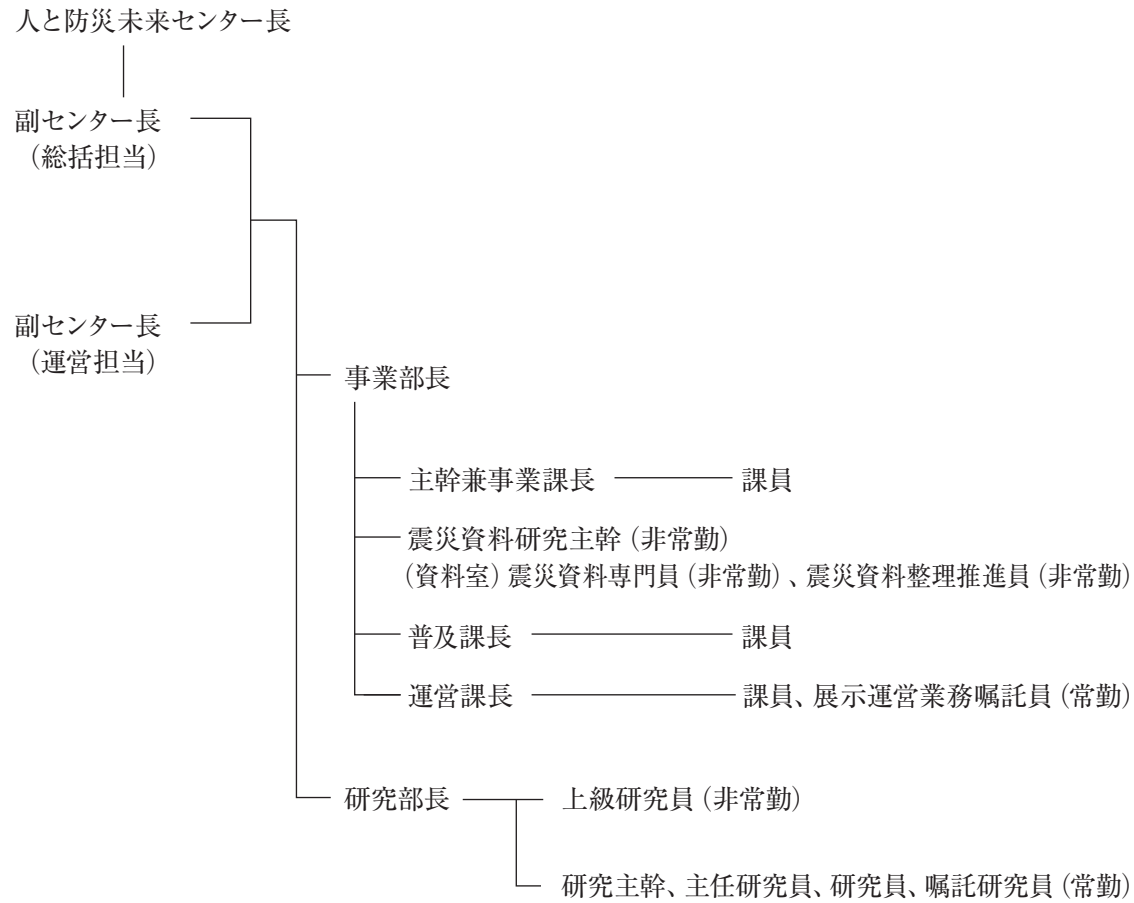
< 2010 年 (平成 22 年) >

- 1. 8 「ひと未来館」展示再オープン (一般公開)
併せて、館の名称について「防災未来館」を「西館」、「ひと未来館」を「東館」
に変更、また入館料金体系を変更

参考資料 4

組織

(平成26年3月31日現在)



職員数 (単位：人)

所 属	職 員	非常勤職員	日々雇用職員	計
センター長・副センター長	2	1	0	3
事業部				
事業課	4	7	0	11
普及課	2	0	0	2
運営課	3	0	2	5
研究部	11	0	0	11
計	22	8	2	32

- ・ 事業部長、震災資料研究主幹、震災資料専門員、震災資料整理推進員は事業課に含む。
- ・ 展示運営業務嘱託員は運営課職員に含む。
- ・ 上級研究員、研究調査員は除く。
- ・ ひょうご震災記念 21 世紀研究機構管理部本務職員は除く。

参考資料5

平成 25 年度 人と防災未来センター特別会計収支予算書

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

(単位：千円)

科 目	予算額			備 考
	25 年度当初	24 年度当初	増 減	
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1) 事業収入	90,224	89,941	283	
① 入館料収入	(56,483)	(55,344)	(1,139)	入館者見込増
② 駐車場等収入	(33,741)	(34,597)	(△856)	
(2) 補助金等収入	710,527	715,751	△5,224	
① 指定管理料収入	(555,193)	(547,618)	(7,575)	人件費増
② 県交付金収入	(89,955)	(89,955)	(0)	
③ 補助金等収入	(63,579)	(74,878)	(△11,299)	政策減免減
④ 国等受託収入	(1,800)	(3,300)	(△1,500)	京大（首都直下）からの受託減
(3) 雑収入	29,386	30,188	△802	
① 受取利息	(1)	(1)	(0)	
② 雑収入	(29,385)	(30,187)	(△802)	
(4) 寄附金収入	0	0	0	
事業活動収入計	830,137	835,880	△5,743	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	830,137	833,101	△2,964	
① 施設運営等事業費支出	(522,028)	(519,217)	(2,811)	人件費の増等
② 研究調査等事業費支出	(153,590)	(153,590)	(0)	
③ センター利用事業費支出	(60,814)	(63,659)	(△2,845)	光熱水費減
④ 研究受託等事業費支出	(3,750)	(6,680)	(△2,930)	委託料減
⑤ ひょうご安全の日関連事業費支出	(89,955)	(89,955)	(0)	
事業活動支出計	830,137	833,101	△2,964	
事業活動収支差額	0	2,779	△2,779	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出	3,169	3,169	0	
① 退職給付引当預金取得支出	(3,169)	(3,169)	(0)	
投資活動支出計	3,169	3,169	0	
投資活動収支差額	△3,169	△3,169	0	
当期収支差額	△3,169	△390	△2,779	
前期繰越収支差額	27,721	15,885	11,836	
次期繰越収支差額	24,552	15,495	9,057	

参考資料 6 - (1)

資料室の概要

資料室では、阪神・淡路大震災に関連する資料（図書、ビデオ、紙資料、モノ資料、写真資料、映像・音声資料など）を検索・閲覧できる。

1) 資料室の体制

平成 25 年度は震災資料研究主幹（矢守克也・京都大学防災研究所教授）のもと、震災の実物資料である一次資料や図書やビデオなどの二次資料を担当する震災資料専門員 4 名、資料整理推進員 3 名により資料室の業務運営を行った。

2) 資料室の主な業務

資料室の業務は、次のとおりである。

- ①震災資料の調査、収集、整理、保存
- ②震災・防災およびその関連領域に関するレファレンス業務
- ③震災一次資料の閲覧申請、館外貸出についての対応
- ④震災学習、防災教育を目的とした所蔵ビデオ等の貸出
- ⑤震災、防災に関する情報発信
- ⑥他機関との連携

3) 資料室における資料の閲覧・複写および利用者サービス

①資料の閲覧・複写

一次資料は、適切な温度・湿度のもとで管理する必要があるため、収蔵庫で保存されている。そのため、来室者が閲覧を希望する場合、申請書類の提出に基づき資料専門員が出納する。

二次資料である図書、雑誌、ビデオ、CD-ROM、DVD など約 3 万 8 千点は開架式で自由に閲覧でき、複写（有料）も利用できる。

②利用者サービス

震災および防災等に関するレファレンス、震災資料提供に関する相談（資料提供申し出の受け付け）などを行った。



震災資料検索用パソコン

4) 資料室の設備

①閲覧スペース

閲覧席 12 席、ソファ

②震災資料検索用パソコン 3 台

内訳：キーボード検索パソコン 2 台

タッチパネル検索パソコン 1 台

一次資料約 18 万 7 千点、二次資料約 3 万 9 千点にのぼる資料は、資料検索用パソコンを使ってデータベースを検索することができる。パソコン操作に不慣れな利用者にはタッチパネル対応パソコンで検索可能な環境を整備している。

一次資料については調査先に関するデータ（所在地、氏名など）やキーワードなどによる検索が、二次資料については書名、著者名、出版社名やキーワードによる検索が可能である。これらの検索はセンターホームページ上（<http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp>）からもできる。

③資料閲覧用パソコン 4 台

- ・デジタル版 街の復興カルテ／3D マイホームデザイナー

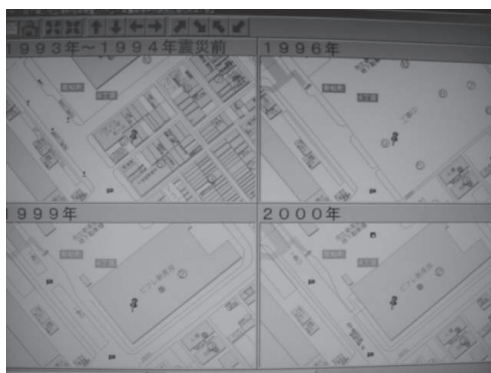
被災地の復興の 1 年ごとの経過をパソコン上で閲覧できる。／パソコンに自宅の構造や立地状況を入力することで、簡単に耐震診断ができる。

- ・神戸新聞記事データベース検索システム

阪神・淡路大震災以降の神戸新聞の記事（地方版を含む）の見出し・本文が、キーワード及び発行年月日を入力することにより検索可能。

- ・阪神・淡路大震災地図情報経年閲覧システム

神戸市内の定点ポイントにおける、震災前・震災直後、復興過程の変化をパソコンの地図上で比較できる。それぞれの時期の地図を同一画面上に表示できるため、震災前から復興の過程を概観できることが大きな特徴である。



阪神・淡路大震災地図情報経年閲覧システム画面

- ・阪神・淡路大震災 犠牲者の記録

震災犠牲者聞き語り調査会が、犠牲者の遺族に聞き取りを行ってまとめた「犠牲者の記録」の一部を公開している。震災犠牲者一人ひとりの詳細な記録を閲覧できる。

- ・『震災復興のあゆみ～あの時と今～』

野田北ふるさとネット・野田北部を記録する会制作、青池憲司監督の記録映像作品を上映している。



④ぼうさいみらい子ども文庫

平成 22 年 1 月、阪神・淡路大震災 15 周年にあたり、次代を担う子どもたちに震災の経験と教訓を伝えるため、国際ソロプチミスト神戸からの寄贈により、資料室内に開設した。主に児童向けの図書、ビデオ・DVD を配架し、防災学習ゲーム等が体験できるようになっている。

○配架資料等

- ・ 図書（絵本） 約 230 点
- ・ ビデオ等 約 20 点
- ・ 防災体験ゲーム「地震 DS72 時間」、カードゲーム等

5) 資料室における配布物

震災及び防災についてより多くの人々に発信していくため、次の資料を配布している。

- ・ 資料室ニュース
(センターホームページからダウンロード可能 <http://www.dri.ne.jp/shiryo/news.html>)
- ・ 『阪神・淡路大震災復興誌』第 1、4、5、9、10 巻 ((財)21 世紀ひょうご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会)
(センターホームページから全 10 巻がダウンロード可能 <http://www.dri.ne.jp/shiryo/fukkoushi.html>)
- ・ 『街の復興カルテ』平成 9 年 3 月、2000～2005 年度版 ((財)21 世紀ひょうご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会)
- ・ 『「震災資料の分類・公開の基準研究会」報告書 ～阪神・淡路大震災関連資料の活用に向けて～』((財)阪神・淡路大震災記念協会)
- ・ 『地震の将来予測への取組 地震調査研究の成果を防災に活かすために』(文部科学省)
- ・ 『災害ボランティア実践ワークショップガイド』(人と防災未来センター)
- ・ 『防災安心読本一わが家・わがまちを守る災害防止マニュアル』(東京法規出版)
- ・ 『大切な家族と地域を守るために 防災対策のすすめ』(ひょうご安全の日推進県民会議)
- ・ 『人と防災未来センター資料室 2010 年度企画展図録 戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災』

震災資料の収集・保存事業の経緯

震災資料の収集・保存事業の経緯の概略

震災一次資料の収集は兵庫県からの委託を受け、平成7年10月から(財)21世紀ひょうご創造協会によって、「震災とその復興に関する資料・記録の収集・保存事業」として収集事業が開始された。

平成10年4月以降は、(財)阪神・淡路大震災記念協会がその事業を引き継ぎ、収集事業を継続すると共に、公開基準等を検討してきた。

平成12年6月から、約2年間にわたり、兵庫県により「緊急地域雇用特別交付金事業」を活用した大規模な震災資料の調査事業が行われ、延べ約450人の調査員がNPO、各種団体・組合、復興公営住宅、事業所、学校、まちづくり協議会等を訪問して、ビラ、チラシ、ノート、メモ、写真、避難所で使用された物などの「生の」資料、いわゆる一次資料（原資料）を中心に収集し、(財)21世紀ひょうご創造協会や(財)阪神・淡路大震災記念協会が収集したものを含め、約16万点の資料が収集された。

平成14年4月に、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターが開館し、これまでに収集した震災資料は、センター資料室で保存・活用等を行うこととなった。

震災資料の収集・保存事業の年表

- 平成 7年 3月 阪神大震災地元NGO救援連絡会議に「震災・活動記録室」を設置。
- 5月 神戸大学附属図書館震災文庫が本格的に震災資料収集活動を開始。
兵庫県立図書館、神戸市立図書館でも、一次資料を含む震災資料の収集を開始。
自治体、図書館、史料保存団体の有志、歴史研究者などによる相互協力活動の開始。
- 10月 (財)21世紀ひょうご創造協会が兵庫県の委託を受けて震災資料収集事業を開始。
- 平成 8年12月 非常勤嘱託（3名）を雇用。旧避難所等を中心に調査。
- 平成10年 4月 (財)阪神・淡路大震災記念協会が収集事業を引き継ぐ。事業内容のひとつとして、「阪神・淡路大震災に係る既存情報の収集整理・保存」を位置づける。
仮設住宅、ボランティアグループを中心に一次資料の調査。
「震災資料の分類・公開基準研究会」設置（～平成12年度末）。
- 平成11年 4月 「公開基準検討部会」設置（～平成12年度末）。
- 平成12年 6月 「緊急地域雇用特別交付金事業」による大規模調査を実施（～平成13年度末）。
- 平成13年 4月 「震災資料の保存・利用、及び活用方策」研究会設置（～平成13年度末）。
「震災資料の保存・利用、及び活用方策」検討部会設置（～平成13年度末）。
- 平成14年 4月 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」資料室に事業を引き継ぐ。

資料室受け入れ図書件数、資料点数、閲覧件数

1 人と防災未来センター資料室 作業収集結果（平成 26 年 3 月末現在）

部 門	件数名		総 数	
図 書	受入図書件数 (購入含む)	図 書	12,583	
		雑 誌	18,599	
		チラシ	1,585	
		映 像	889	
		その他	5,005	
		総 数	38,661	
	バーコード登録件数		10,607	
	図 書 購 入 件 数		3,147	
	目次入力済件数		22,165	
	依頼状発送件数		9	
	礼 状 発 送 件 数		35	
	ビデオ貸出本数 (件数)		232 本	
131 件				
資 料	入力済み件数	調 査 先 総 数		17,522
		資料提供者件数		3,772
		資料点数	映像・音声 (点数)	1,270
			紙 (点数)	177,946
			モノ (点数)	1,424
			写真 (点数)	6,036
				126,332 枚
		総点数		186,676
	資料提供件数 (データ未入力を含む)		6 件	
	調査回数 (データ未入力を含む)		6 回	
資料室全般	相談業務件数	全 体 数	32	
		解 決	32	
		未 解 決	0	
		入力件数	2,027	
	資料閲覧申請件数	申請件数	23	
		申請資料総点数	3,085	

2 平成 25 年度資料室受け入れ二次資料点数

	平成 25 年度 資料室受け入れ二次資料点数	平成 26 年 3 月末現在 二次資料点数 (累計)
図 書	270	12,583
雑 誌	274	18,599
チ ラ シ	70	1,585
映 像	12	889
そ の 他	149	5,005
総 数	775	38,661

3 平成 25 年度資料室利用者数

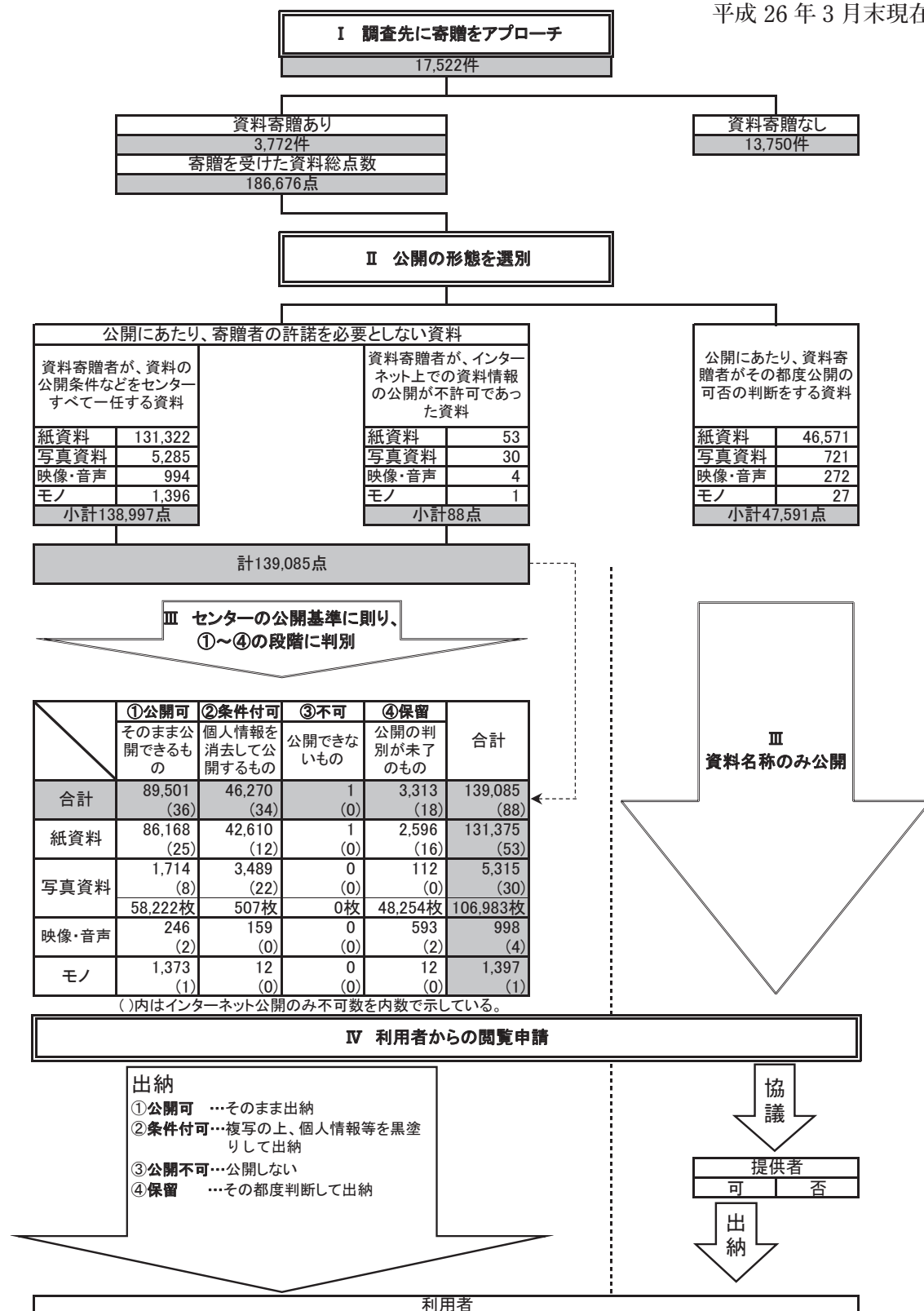
(単位：人)

月	人 数
4 月	326
5 月	321
6 月	289
7 月	348
8 月	476
9 月	258
10 月	256
11 月	335
12 月	257
1 月	371
2 月	311
3 月	196
合計	3,744

*一日あたり平均利用者数 12 人

人と防災未来センターにおける調査の流れとデータベース（資料点数）の関連

平成 26 年 3 月末現在



参考資料 7

新聞記事がとりあげた人と防災未来センター

- ・記事抽出対象紙
朝日新聞、神戸新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞の計6紙。
神戸新聞以外はすべて大阪本社版を基本としている。
- ・記事抽出期間
平成25年4月1日～平成26年3月31日
- ・抽出方法
記事見出しあるいは記事本文に「人と防災未来センター」というキーワードを含むものなど。

平成25年度センター関連記事の掲載回数

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	5	4.7
朝日新聞	14	13.1
毎日新聞	31	29.0
神戸新聞	48	44.9
日本経済新聞	1	0.9
産経新聞	8	7.5
計	103	100.0

(参考) 掲載回数累計

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	437	17.0
朝日新聞	366	14.3
毎日新聞	506	19.7
神戸新聞	895	34.9
日本経済新聞	109	4.2
産経新聞	254	9.9
計	2,567	100.0

- ・主な記事内容
 - ①イベント
例：阪神・淡路大震災事業関連、夏休み防災未来学校、災害被災地派遣、災害対策専門研修、追悼のつどい、資料室企画展、資料提供者の特集記事など
 - ②人物
例：センター長、副センター長、上級研究員、主任研究員、研究員、震災資料専門員のコメントなど
 - ③各新聞の掲載記事の事例
 - ・センター研究員関係
「世界の被災地 住宅復興を比較」『神戸新聞』2013年5月20日
「フィリピン台風禍支援 研究員を派遣」『神戸新聞』2013年11月15日
 - ・センター行事・資料室関係
「阪神大震災 復興見守った86歳の遺志」『朝日新聞』2013年12月25日

参考資料 8

災害対策専門研修「トッpfォーラム in 山形」カリキュラム

日 時：平成25年7月11日（木） 13：00～17：00

場 所：山形テルサ 3F アプローチ（講演）、同1F 大会議室（演習）

主 催：山形県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

共 催：財団法人山形県市町村振興協会、山形県治水協会、山形県砂防協会

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 山形県知事 吉村美栄子
第1部 講義	13：05～13：10 (05)	オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 石川 永子
	13：10～13：55 (45)	【講演1】山形県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：55～14：20 (25)	【講演2】災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究主幹 近藤 伸也
	14：20～14：40 (20)	【講演3】危機管理時、首長は率先して住民にメッセージを発信しなければならない 人と防災未来センター リサーチフェロー (元読売新聞大阪本社編集委員) 安富 信
14：40～14：55 (15)		休 憩
第2部 演習	14：55～15：15 (20)	【演習】オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 石川 永子
	15：15～15：55 (40)	【演習】ステージ1：現状認識と状況予測 各グループ
	15：55～16：25 (30)	【演習】ステージ2：対応方針の決定 各グループ
	16：25～16：50 (25)	【演習】ステージ3：メッセージ発信演習 講評 人と防災未来センター リサーチフェロー NHK 大阪放送局報道部（報道番組）ディレクター 近藤 誠司
16：50～17：00 (10)		全体の講評 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
17：00		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一

参考資料 8

災害対策専門研修「トップフォーラム in 岐阜」カリキュラム

日 時：平成25年8月1日（木） 13：00～17：00

場 所：ホテルグランヴェール岐山3階

主 催：岐阜県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 岐阜県知事 古田 肇
13：05～13：10 (05)		オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 阪本真由美
第1部 講義	13：10～13：55 (45)	岐阜県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：55～14：15 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター リサーチフェロー 岐阜大学教育学部准教授 上野 友也
	14：15～14：35 (20)	災害対応における能動的な広報 人と防災未来センター リサーチフェロー NHK 大阪放送局報道部（報道番組）ディレクター 近藤 誠司
14：35～14：45 (10)		休 憩
第2部 演習	14：45～16：20 (95)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 主任研究員 阪本真由美 ・ワークショップ ※ 各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
	16：20～16：35 (15)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：35～16：45 (10)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター リサーチフェロー NHK 大阪放送局報道部（報道番組）ディレクター 近藤 誠司
16：45～16：55 (10)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：55～17：00 (05)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一

参考資料 8

災害対策専門研修「トップフォーラム in 福岡」カリキュラム

日 時：平成26年1月31日（金） 13：00～17：00

場 所：福岡県庁3階 講堂

主 催：福岡県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 福岡県知事 小川 洋
第1部 講義	13：05～13：50 (45)	福岡県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：50～14：10 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究員 高田 洋介
	14：10～14：30 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター リサーチフェロー 読売新聞西部本社社会部デスク 高橋 淳夫
14：30～14：50 (20)		休 憩
第2部 演習	14：50～16：20 (90)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 研究員 渡邊 敬逸 ・ワークショップ ※ 各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
	16：20～16：35 (15)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：35～16：45 (10)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター リサーチフェロー 読売新聞西部本社社会部デスク 高橋 淳夫
16：45～16：55 (10)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：55～17：00 (05)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一

参考資料 8

平成 25 年度春期 災害対策専門研修

マネジメントコース：ベーシック

主担当：主任研究員 石川 永子

	6月4日（火）	6月5日（水）	6月6日（木）	6月7日（金）
1限 09時30分 ～ 10時45分	/	我が国における災害対応の動向 福田 泰平 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官補佐 ・東日本大震災の経験を踏まえて、最新の国の災害対応体制について理解する	災害史と社会 福和 伸夫 人と防災未来センター上級研究員（名古屋大学減災連携研究センター長・教授） ・過去の震災が歴史に与えた影響を学びつつ、現代の都市と社会の分析をとおして、その脆弱性と災害像を予測し、備えの方法を考える	リスクコミュニケーション概論 吉川 肇子 慶応義塾大学商学部 教授 ・人びとがリスクをどのように認識しているのかを理解したうえで、緊急時の効果的な情報伝達方法を理解する
2限 11時00分 ～ 12時15分		災害過程論 木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 ・災害発生後に、被災者が直面する様々な課題を時間軸から理解する	危機管理総論 越山 健治 人と防災未来センターリサーチフェロー（関西大学社会安全学部 准教授） ・危機管理の基礎的な考え方と実務上のとらえ方を理解する	災害をもたらす自然現象の理解（風水害） 川池 健司 京都大学防災研究所 准教授 ・風水害の発生過程とその対応方法を理解し、自治体の対応を考える
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害をもたらす自然現象の理解（地震・津波） 清野 純史 人と防災未来センター上級研究員（京都大学地球環境学 教授） ・地震発生のメカニズムと、それによる物理的・社会的被害を理解し、自治体の対応を考える	地震による建物被害 佐伯 琢磨 人と防災未来センターリサーチフェロー（阪三養総合研究所科学・安全政策研究本部社会イノベーショングループ 主席専門研究員） ・地震及び地震火災による建物被害を理解し、自治体の対応を考える	災害関連法体系基礎 山崎 栄一 大分大学教育福祉学部 准教授 ・災害対応にあたって使える権限・財源を理解する ・災害対策基本法・災害救助法の守備範囲を理解する	民間企業の災害対応 水島 重光 日本生活協同組合連合会 B・C・P 対策室 特別契約（減災塾塾長） ・災害時の被災者支援における、行政と民間企業との連携について理解する
4限 14時45分 ～ 16時00分	（センター展示施設見学ワークショップ） 災害時に被災者が直面する生活課題 石川 永子 人と防災未来センター主任研究員 ・災害発生時に人びとが直面する生活上の課題を具体的にイメージする	大規模災害における行政の対応の実態 ー東日本大震災と阪神・淡路大震災の事例よりー 〔震災当時の行政関係者〕 庄慶 浩一 兵庫県消防学校副校長 大内 伸 宮城県危機対策課課長補佐（総括担当） （災害対策検証・記録リーダー） 佐藤 智 宮城県南三陸町危機管理課課長補佐兼住民安全係長	防災計画・マニュアルの考え方 近藤 伸也 人と防災未来センター研究主幹 ・災害対応に活かすことができるマニュアルの考え方について学ぶ	全体討論会 石川 永子 人と防災未来センター主任研究員 等 ・参加者の意見交換から、災害対応における姿勢を学ぶ
5限 16時15分 ～ 17時30分			地域防災計画論 今石 佳太 人と防災未来センター災害対策専門研修 DisasterManager（芦屋市企画都市市長室長） ・地域防災計画の法的な位置づけとそれを補完するプログラム、活用方策の事例を理解する	16：00～16：40 レポートタイム 16：40～16：55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

マネジメントコース：エキスパート A

主担当：主任研究員 斉藤 容子

	6月11日（火）	6月12日（水）	6月13日（木）	6月14日（金）
1限 09時30分 ～ 10時45分	（センター展示見学：希望者のみ）	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 客員研究員（同志社大学社会学部 教授） 山本 康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表 平野 昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、ボランティアの果たす役割、市民の力の特徴と行政との関係のあり方について理解を深める	災害対応各論（医療活動） 甲斐 達朗 上級研究員（済生会千里病院千里救命救急センター） ・災害現場の医療活動体制について理解を深める	都市の復興概論＋復興まちあるき 小林 郁雄 上級研究員（神戸山手大学現代社会学部 教授） マリ エリザベス 人と防災未来センター主任研究員 ・阪神・淡路大震災の被災地を歩きながら、復興過程と様々な取り組みを学ぶ
2限 11時00分 ～ 12時15分			災害対応各論（被災者救護の実践的取り組み） 中島 直樹 和歌山県公営企業課主任（前福祉保健部福祉保健総務課主任） ・平成 23 年度台風 12 号における災害救助法適用事例から災害救助法の理解を深める	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害対応概論（初動期） 高田 洋介 人と防災未来センター研究員 ・初動対応時の対応と課題について理解を深める	災害をもたらす自然現象の理解（津波） 興村 与志弘 リサーチフェロー 京都大学大学院 地球環境学 資源循環学術地震災害リスク論分野／工学研究科 都市社会工学専攻 地震ライフライン工学講座（兼務）助教 ・津波の発生メカニズムとそれによる物理的・社会的被害、今後の災害に備えた被害想定について学ぶ	災害対応各論（災害時の物流対応） 興村 徹 株日通総合研究所経済研究部 部長 ・災害直後から被災者の生活支援のための物流対応について、自治体担当部署のみならず民間運送会社などの能力も活用した実践的な事例を学ぶ	災害対応概論（復旧・復興期） 中林 一樹 上級研究員（明治大学 大学院政治経済学研究科 特任教授） ・復旧・復興期の対応と課題について学ぶ
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応概論（応急期） 石川 永子 人と防災未来センター主任研究員 ・応急対応期の対応と課題について理解を深める	災害対応各論（広域連携） 阪本 真由美 人と防災未来センター主任研究員 ・災害時の被災自治体の対応において、広域連携のあり方について理解を深める	災害対応演習（クマ演習） 近藤 伸也 人と防災未来センター研究主幹 ・危機発生時の具体的な課題をもとに、災害対応の考え方について学ぶ	災害事例 WS 斉藤 容子 人と防災未来センター主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	危機対応時の組織論（情報システム） 浦川 豪 兵庫県立大学防災教育センター 准教授 ・災害発生直後の被害予測技術、システム設計における業務分析の考え方を学ぶ	危機対応各論（組織論） （戦略的な広報について） 安富 信 リサーチフェロー（大阪読売サービス株式会社制作本部 企画編集委員） 川西 勝 リサーチフェロー（読売新聞大阪本社 編集委員） ・災害時の情報提供方法、報道機関対応の課題を学ぶ	危機対応各論（行政と自衛隊との連携） 越野 修三 岩手大学 地域防災研究センター教授 ・行政と自衛隊の連携について理解を深める	16：00～16：40 レポートタイム 16：40～16：55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	



マネジメントコース：エキスパートB

主担当：研究員 高田 洋介

	6月18日（火）	6月19日（水）	6月20日（木）	6月21日（金）
1限 09時30分 ～ 10時45分	（センター展示見学：希望者のみ）	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通して災害による被害過程の全体像について理解する	業務継続計画論 紅谷 昇平 人と防災未来センターリサーチフェロー（神戸大学 社会科学系教育研究府特命准教授） ・各公共機関におけるBCPの意味と重要性について、また、その導入について、具体的な事例を交えて理解する	ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 矢守 克也 人と防災未来センター上級研究員・震災資料研究主幹（京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授） ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえつつ、災害時の対応イメージを豊かにすることの重要性とその方法について、ゲーミング手法を活用して学ぶ
2限 11時00分 ～ 12時15分	10：40～11：00 開講式 11：00～12：15 オリエンテーション 高田 洋介 人と防災未来センター研究員	標準的な災害対応システム論 林 春男 人と防災未来センター上級研究員（京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授） ・災害対応における標準的業務手順と対応手法について学ぶ	災害対策本部の空間構成設計演習 牧 紀男 京都大学防災研究所准教授 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト東京事務所防災部主任 ・災害対策本部のレイアウトの重要性、また適切なレイアウトについて、演習を交えて理解する	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害情報共有手法 宇田川 真之 人と防災未来センター研究主幹 近藤 誠司 人と防災未来センターリサーチフェロー（NHK大阪放送局報道部（報道番組）ディレクター） ・庁内や関係機関、住民との情報共有や広報について学ぶ	災害と男女共同参画 斉藤 容子 人と防災未来センター主任研究員 ・災害時における男女共同参画の視点をこれまでの事例を踏まえて理解を深める。		災害による交通渋滞について 中川 大 人と防災未来センター上級研究員（京都大学大学院工学研究科 教授 / 低炭素都市圏政策ユニット長） ・災害時における交通計画や道路啓開の仕方、都市構造について
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初期の被災者に対する接し方及び災害対応業務を行う上でのマインドケアについて	災害時の健康危機管理 金谷 泰宏 国立保健医療科学院健康危機管理研究部部長 ・被災住民の健康危機に対する行政の支援について理解を深める	地方自治体における災害対策専門研修の実践的な活用（14：45～15：30） 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー（長野県危機管理部危機管理防災課担当係長） ・人と防災未来センターの災害対策専門研修を、実際に長野県の施策として実践した事例を紹介することで、受講者が業務に活用するための一助とする	被害認定業務 田中 聡 富士常葉大学環境防災学部教授 ・被害認定の種類、また被災者への支援にとって重要な罹災証明書発行業務の実務について
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害の対応事例と教訓 齋藤 富雄 兵庫県国際交流協会理事長 ・災害事例をもとに、災害対応の課題と対応方法の考え方について理解を深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害対応のあり方について理解を深める	避難の実態と課題 田中 淳 人と防災未来センター上級研究員（東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター教授） ・災害種別ごとに異なる避難行動のタイミングと避難が困難な要援護者への対応について学ぶ	災害対応各論（NGO/NPO） （15：40～17：30） 森 毅彦 総務省総合通信基盤局電波部 基幹通信課長 明城 徹也 ジャパン・プラットフォーム国内事業部長 / 東北事務所長 ・NGO/NPOに対する理解を深め、災害支援における民間と行政の連携について学ぶ	16：00～16：20 全体の振り返り 16：20～16：40 レポートタイム 16：40～16：55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

参考資料 8

平成 25 年度秋期 災害対策専門研修

マネジメントコース：エキスパート A

主担当：研究員 古本 尚樹

	10月8日(火)	10月9日(水)	10月10日(木)	10月11日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	(センター展示見学：希望者のみ)	災害対応各論(広域連携) 阪本 真由美 人と防災未来センター主任研究員 ・災害時の被災自治体の対応において、広域連携のあり方について理解を深める	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 客員研究員 (同志社大学社会学部 教授) 山本 康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表 平野 昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局	災害対応各論(災害時の物流対応) 興村 徹 株式会社通総研究所経済研究部 部長 ・災害直後から被災者の生活支援のための物流対応について、自治体担当部署のみならず民間運送会社などの能力も活用した実践的な事例を学ぶ
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 古本 尚樹 人と防災未来センター研究員	危機対応時の組織論(情報システム) 浦川 豪 兵庫県立大学防災教育センター 准教授 ・災害発生直後の被害予測技術、システム設計における業務分析の考え方を学ぶ	・災害時の被災社会の対応において、ボランティアの果たす役割、市民の力の特徴と行政との関係のあり方について理解を深める	災害対応各論(被災者救護の実践的取り組み) 中島 直樹 和歌山県公営企業課主任(前福祉保健部福祉保健総務課主任) ・平成23年度台風12号における災害救助法適用事例から災害救助法の理解を深める
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害対応概論(初動期) 高田 洋介 人と防災未来センター研究員 ・初動対応時の対応と課題について理解を深める	災害対応各論(医療活動) 甲斐 達朗 上級研究員(済生会千里病院千里救命救急センター) ・災害現場の医療活動体制について理解を深める	災害をもたらす自然現象の理解(津波) 奥村 与志弘 リサーチフェロー 京都大学大学院 地球環境学 資源循環学 地盤地震災害リスク論分野/工学研究科 都市社会工学専攻 地震ライフライン工学講座(兼務) 助教 ・津波の発生メカニズムとそれによる物理的・社会的被害、今後の災害に備えた被害想定について学ぶ	災害対応概論(復旧・復興期) 中林 一樹 上級研究員 (明治大学 大学院政治経済学研究科 特任教授) ・復旧・復興期の対応と課題について学ぶ
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応概論(応急期) 石川 永子 人と防災未来センター主任研究員 ・応急対応期の対応と課題について理解を深める	危機対応各論(行政と自衛隊との連携) 越野 修三 岩手大学 地域防災研究センター教授 ・行政と自衛隊の連携について理解を深める	都市の復興概論+復興まちあるき 小林 郁雄 上級研究員 (神戸山手大学現代社会学部 教授) マリ エリザベス 人と防災未来センター主任研究員 ・阪神・淡路大震災の被災地を歩きながら、復興過程と様々な取り組みを学ぶ	災害事例 WS 古本 尚樹 人と防災未来センター研究員 ・災害対応に関わるワークショップを行い、研修で得た知識を実践に活かす方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害対応演習(クマ演習) 近藤 伸也 人と防災未来センター研究主幹 ・危機発生時の具体的な課題をもとに、災害対応の考え方について学ぶ	危機対応時の組織論(戦略的な広報について) 安富 信 リサーチフェロー (大阪読売サービス株式会社編集制作本部 企画編集委員) 川西 勝 リサーチフェロー (読売新聞大阪本社 編集委員) ・災害時の情報提供方法、報道機関対応の課題を学ぶ		16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

マネジメントコース：エキスパート B

主担当：研究員 渡邊 敬逸

	10月15日(火)	10月16日(水)	10月17日(木)	10月18日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分		災害の対応事例と教訓 齋藤 富雄 兵庫県国際交流協会理事長 ・災害事例をもとに、災害対応の課題と対応方法の考え方について理解を深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害対応のあり方について理解を深める	標準的な災害対応システム論 木村 玲玖 兵庫県立大学環境人間学部大学院環境人間学研究科准教授 ・災害対応における標準的業務手順や対応手法について学ぶ	ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 矢守 克也 人と防災未来センター上級研究員・震災資料研究主幹(京都大学防災研究所教授) ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえつつ、災害時の対応イメージを豊かにすることの重要性とその方法について、ゲーミング手法を活用して学ぶ
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 渡邊 敬逸 人と防災未来センター研究員	災害と男女共同参画 池田 恵子 静岡大学教育学部教授 ・災害時における男女共同参画の視点をこれまでの事例を踏まえて理解を深める	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の全体像について理解する	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害時の健康危機管理 金谷 泰宏 国立保健医療科学院健康危機管理研究部部長 ・被災住民の健康危機に対する行政の支援について理解を深める	災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初動期の被災者に対する接し方及び災害対応業務を行う上でのマインドケアについて	避難の実態と課題 宇田川 真之 人と防災未来センター研究主幹 ・災害種別ごとに異なる避難行動のタイミングと避難が困難な要援護者への対応について学ぶ	災害による交通渋滞について 中川 大 人と防災未来センター上級研究員(京都大学大学院工学研究科 教授/低炭素都市圏政策ユニット長) ・災害時における交通計画や道路啓蒙の仕方、都市構造について
4限 14時45分 ～ 16時00分	被害認定業務 田中 聡 常葉大学環境防災学部教授 ・被害認定の種類、また被災者への支援にとって重要な罹災証明書発行業務の実務について	地方自治体における災害対策専門研修の実践的な活用(14:45～15:30) 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー(長野県危機管理部危機管理防災課担当係長) ・人と防災未来センターの災害対策専門研修を、実際に長野県の施策として実践した事例を紹介することで、受講者が業務に活用するための一助とする	災害対策本部の空間構成設計演習 牧 紀男 京都大学防災研究所准教授 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト東京事務所防災部主任 ・災害対策本部のレイアウトの重要性、また適切なレイアウトについて、演習を交えて理解する	業務継続計画論 紅谷 昇平 人と防災未来センターリサーチフェロー (神戸大学 社会科学系教育研究府特命准教授) ・自治体におけるBCPの意味と重要性について、また、その導入について、具体的な事例を交えて理解する
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害情報の受発信手法 近藤 誠司 人と防災未来センターリサーチフェロー(NHK大阪放送局報道部(報道番組)ディレクター) ・被害情報の受信(収集)と発信(広報)および、これらを総合した情報共有の在り方について学ぶ	災害対応各論(NGO/NPO) (15:40～17:30) 森 毅彦 総務省総合通信基盤局電波部 基幹通信課長 明城 徹也 ジャパン・プラットフォーム国内事業部長/東北事務所長 ・NGO/NPOに対する理解を深め、災害支援における民間と行政の連携について学ぶ		16:00～16:20 全体の振り返り 16:20～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	



参考資料 8

平成 25 年度秋期 災害対策専門研修

アドバンスト／防災監・危機管理監コース

主担当：主任研究員 阪本 真由美

10月24日(木)	10月25日(金)
(9:30～12:00) (センター展示見学：希望者のみ)	(9:30～11:00) 90分 「行政対応特論②」 越野 修三 岩手大学 地域防災研究センター教授(元 岩手県防災危機管理監) 東日本大震災において危機管理監として指揮した経験に基づき、災害時の参謀長の役割と状況判断の思考過程を学ぶ。
(12:20～12:40) 開講式 (12:40～13:00) オリエンテーション 阪本 真由美 人と防災未来センター 主任研究員	(11:15～12:30) 75分 「災害対応特論」 室崎 益輝 (財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 副理事長 災害の状況に応じて既存法制度の限界部分、対応策についての指示、判断ができるようになるための考えを深める。講義は討論形式で行う。
(13:15～14:45) 90分 「危機対応時の組織論(トップの対応)」 遠藤 勝裕 (独) 日本学生支援機構 理事長(元 日本銀行神戸支店長) 阪神・淡路大震災での日本銀行神戸支店トップの災害対応、危機管理に対する心得を学ぶ。	(13:30～16:00) 150分 「災害対応検討ワークショップ」 室崎 益輝 (公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 副理事長 越野 修三 岩手大学 地域防災研究センター教授(元 岩手県防災危機管理監) 阪本 真由美 人と防災未来センター 主任研究員 災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針、施策を検討する考え方を演習を通じて深める。 (途中休憩あり)
(15:00～15:45) 45分 「目標管理型災害対応論」 阪本 真由美 人と防災未来センター 主任研究員 目標管理型災害対応の考え方やその具体的内容について、過去の災害事例を踏まえ理解する。	(16:00～16:10) レポートタイム
(16:00～17:30) 90分 「行政対応特論①」 齋藤 富雄 (公財) 兵庫県国際交流協会理事長(元 兵庫県防災監) 大規模災害時の対応事例を知り、災害発生後の対応課題と首長に助言すべき内容を学ぶ。講義は討論形式で行う。	(16:10～17:10) 60分 「危機対応組織論」 河田 恵昭 人と防災未来センター センター長 危機対応をする上で首長を補佐する職にある人が必要とする能力について理解する。
(17:30～17:45) レポートタイム	(17:10～17:30) 閉講式

※ 内容や時間帯については変更の可能性があります。

図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース

12月3日(火)	12月4日(水)
	(9:00～9:05) オリエンテーション (2日目)
(10:00～10:10) 開講式 (10:10～10:25) オリエンテーション 人と防災未来センター (DRI) 研究員	(9:05～9:20) 作戦会議 役割分担の再確認 (9:20～11:20) 第2回図上訓練 発生2日後 (11:20～11:50) 本部長レク 1週間後までの災害対応計画案などの説明 (11:50～12:00) 記者会見資料の作成 記者会見資料の作成
(10:25～10:45) 講義1：災害対策本部での業務 人と防災未来センター研究主幹 近藤 伸也 (10:45～11:30) 講義2：災害時の広報対応 大阪読売サービス㈱ 企画編集委員 安富 信	(12:30～13:30) 休憩
(11:30～12:30) 休憩	(13:00～14:30) 記者会見シミュレーション 報道記者 災害対応(演習)を踏まえた記者発表を行う。
(12:30～13:45) 自己紹介・班分け 図上訓練ルール説明 DRI 研究員 (13:45～14:30) 作戦会議 役割分担の確認 (14:30～16:30) 第1回図上訓練 地震発生当日 (16:30～17:00) 本部長レク 状況認識の統一など (17:00～17:50) 振り返り 各グループ・担当ごとに振り返り (17:50～18:00) 講評 演習全体の視点から受講者にアドバイス	(14:30～14:45) 休憩 記念撮影 (14:45～16:00) 振り返り 各グループ・班ごとに振り返り (16:00～16:35) 発表 振り返り内容について発表 (16:35～16:50) 講評・質疑応答 演習全体の視点から講評と質疑応答 (16:50～17:20) 講義3：図上訓練の適用に向けて 人と防災未来センター研究主幹 近藤 伸也
(18:00～18:30) 作戦会議 翌日の図上訓練に向けた改善、準備	(17:20～17:30) 閉講式

平成25年度JICA課題別特別研修「総合防災行政(Bコース)」日程

日時	曜日	時間	カリキュラムとの関係	行 程	研修機関講演者及び担当者等（敬称略）
8/20	火	14:00-14:15		開講式	人と防災未来センター 副センター長挨拶 JICA四国支部長 挨拶
		14:15-14:45		JICA説明、国際防災研修センター説明	JICA関西
		15:00-15:30		人と防災未来センター概略説明	村田 昌彦 人と防災未来センター 研究部長
		15:30-16:30		プログラム説明（アクションプランの説明含む）	マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
8/21	水	9:30-11:00	防災対策	人と防災未来センター 視察	9:30～シアター、10:30～津波
		11:15-12:00	防災対策	日本の防災行政	古本 尚樹 人と防災未来センター 研究員
		13:00-17:00		カントリーレポート発表会	JICA四国 花岡副調査役
8/29	木	10:00-11:30	異なる災害種	香川の水事情や香川用水の概要（干ばつ対策）	鹿庭 伸二 香川用水土地改良区管理課長
		13:00-17:20	異なる災害種	現地視察（香川県内）	鹿庭 伸二 香川用水土地改良区管理課長 外
8/30	金	9:30-11:00	活動計画の策定	アクションプラン作成準備①	マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
		移動		高松市→徳島市	
		13:00-16:00	民間セクターが果たす役割	コミュニティFMが担う防災	川田 春夫 株式会社エフエムびざん 取締役 企画営業部長
8/31	土	休日			
9/1	日	休日			
9/2	月	移動		徳島市→淡路市	
		10:00-12:00	防災対策	野島断層記念館視察	語り部（震災体験）約1時間 館内視察約1時間
		移動		淡路市→神戸市	
9/3	火	9:30-12:00	民間セクターが果たす役割	クロスロード	柿本 雅通 クロスロード研究会
		13:00-14:30	異なる災害種	災害対応「コミュニティ防災」	斉藤 容子 人と防災未来センター 主任研究員
		14:45-16:45	異なる災害種	災害対応「災害の早期警戒情報の活用に関する講義」	近藤 伸也 人と防災未来センター 研究主幹
9/4	水	9:30-11:00	異なる災害種	災害対応「避難所」	石川 永子 人と防災未来センター 主任研究員
		11:15-12:00	異なる災害種	災害対応「仮設住宅」	マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
		13:00-14:30	異なる災害種	「HFAとISDRの活動」	松岡 由季 国連国際防災戦略事務局 駐日事務所代表
		14:45-16:45	異なる災害種	緊急時におけるOCHAの活動と各国政府への支援連携	渡部 正樹 国連人道問題調整事務所 神戸事務所 所長
9/5	木	10:00-12:00	異なる災害種	IPRの概要と課題「被災者支援とインフラの観点より」	河内 紳吾 国際復興支援プラットフォーム事務局 次長
		13:00-14:15	異なる災害種	Collection of Disaster Information in Emergency Phase	高田 洋介 人と防災未来センター 研究員
		14:30-17:00	異なる災害種	神戸市における防災福祉コミュニティの活動について	大津 暢人 神戸市消防局 消防司令補
9/6	金	9:30-12:30	民間セクターが果たす役割	地域における災害リスクの把握（タウン・ウォッチング）	小川 雄二郎 BOSAI International代表 マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
		13:30-17:00	民間セクターが果たす役割	住民参加型ハザードマップ作成、プレゼンテーション	小川 雄二郎 BOSAI International代表 マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
9/7	土	休日			
9/8	日	休日			
9/9	月	9:30-12:00	民間セクターが果たす役割	マスメディアによる災害情報の伝達	近藤 誠司 NHK大阪放送局報道部（報道番組）ディレクター
		13:30-16:30	民間セクターが果たす役割	NHK神戸放送局 施設見学	NHK神戸放送局
9/10	火	9:30-12:00	民間セクターが果たす役割	いざカエルキャラバン	永田 宏和 NPO法人プラス・アーツ理事長 永田 智子 NPO法人プラス・アーツ 事務局員
		14:00-16:00	防災対策異なる災害種	日本の自然災害	河田 恵昭 人と防災未来センター センター長
9/11	水	9:30-12:00	活動計画の策定	アクションプラン作成②	マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
		13:00-17:00	活動計画の策定	アクションプラン作成②	マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
9/12	木	9:30-11:50	活動計画の策定	アクションプラン発表会	マリ エリザベス 人と防災未来センター 主任研究員
		13:00-14:15			
		14:30-15:30		評価会	JICA四国 人と防災未来センター
		15:30-16:00		閉講式	JICA四国
		16:15-17:00		意見交換会	JICA

参考資料 8

防災スペシャリスト養成研修カリキュラム

第3四半期：平成25年11月12日（火）～12月6日（金）

防災一般コース：平成25年11月12日（火）～15日（金）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
12日 （火）	有明の丘基幹的広域防災拠点施設見学 （希望者のみ）	開講式 オリエンテーション	災害発生のメカニズム 「地震と地震振動」 山崎文雄 （千葉大）	災害の社会的影響 「地震と火災」 加藤孝明 （東京大）	災害発生メカニズム 「風水害」 牛山素行 （静岡大）
13日 （水）	防災対策の基礎 「大規模災害における行政対応の実態」 浦安市危機管理監 宮城県危機対策企画専門監		防災対策の基礎 「防災情報システム」 小松幸夫 宇田川真之 西岡徹	防災対策の基礎 「減災社会を築く」 岩田孝仁 （静岡県）	防災対策の基礎 「危機管理総論」 武田文男 （政策研究大学院大）
14日 （木）	防災対策の基礎 「災害法体系」 山崎栄一 （大分大）	災害の社会的影響（演習） 「災害過程・被災者生活」 立木茂雄 （同志社大）		防災の動き 「台風・大雨・竜巻に関する情報活用」 市澤成介 （ハレックス）	防災対策の基礎 「災害情報」 宇田川真之 （DRI）
15日 （金）	災害対応各論 「企業連携」 水島重光 （日本生協連）	災害の社会的影響 「災害過程・被災者生活」 木村玲央 （兵庫県立大）	防災の動き 「地震災害史」 伊藤和明 （防災情報機構）	「全体討論会」 中林一樹（明治大） 近藤伸也（DRI）	閉講式

幹部コース：平成25年11月14日（木）～15日（金）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
14日 （木）	有明の丘基幹的広域防災拠点施設見学 （希望者のみ）	開講式 オリエンテーション	組織マネジメント 「基本理論」 田村圭子（新潟大）	災害対応総論 「BCP」 丸谷浩明 （東北大）	災害対応総論 「広報」 福島隆史 （TBS）
15日 （金）	組織マネジメント 「トップマネジメント」 志方俊之 （帝京大学）	組織マネジメント 「AAR」 重川希志依 （常葉大学）	組織マネジメント 「対応検討」 越野修三（岩手大） 阪本真由美（DRI）	組織マネジメント （演習） 「対応検討」 越野修三（岩手大） 阪本真由美（DRI）	閉講式

防災中堅コース：平成25年11月18日（月）～21日（木）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
18日 （月）	有明の丘基幹的広域防災拠点施設見学	開講式 オリエンテーション	防災対策の基礎 「災害情報」 宇田川真之 （DRI）	災害対応各論 「医療活動」 阿南英明 （藤沢市民病院）	災害発生のメカニズム 「津波」 越村俊一（東北大）
19日 （火）	災害対応総論 「初動期対応」 近藤伸也 （DRI）	災害対応総論 「復旧・復興期対応」 市古太郎 （首都大）	災害対応各論 「災害救助法」 中島直樹 （和歌山県）	組織マネジメント（演習） 「本部空間配置」 元谷豊 （SC）	
20日 （水）	災害発生のメカニズム 「都市巨大災害」 河田恵昭 （DRI）	災害対応各論 「広域連携」 阪本真由美 （DRI）	災害対応各論 「災害時要援護者」 田村圭子 （新潟大）	災害対応各論 「救援物資物流」 興村徹 （日通総研）	災害対応各論 「自衛隊連携」 越野修三 （岩手大）

21日 (木)	災害対応総論（演習） 「情報処理～地理空間情報活用」 浦川豪 (兵庫県立大)	災害対応総論 「応急期対応」 石川永子 (DRI)	組織マネジメント 「目標管理」 石川永子 (DRI)	閉講式
------------	---	------------------------------------	-------------------------------------	-----

総合コース：平成 25 年 11 月 25 日（月）～ 12 月 6 日（金）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
25日 （月）	有明の丘基幹的広域防災拠点施設見学 （希望者のみ）	開講式 オリエンテーション	災害発生 のメカニズム 「津波」 原田賢治 （静岡大）	災害対応総論 「初動期対応」 紅谷昇平 （神戸大）	災害対応各論 「避難行動」 中森広道 （日大）
26日 （火）	組織マネジメント 「基本理論」 牧紀男 （京都大）	災害対応各論 「災害時交通対応策」 中川大 （京都大）	災害対応総論 「復旧・復興期対応」 市古太郎 （首都大）	災害対応総論（演習） 「災害対応業務フローの整理方法」 浦川豪 （兵庫県立大）	
27日 （水）	災害対応総論 「復興法制」 立岩里生太 （内閣府）	災害対応総論 「広報」 福島隆史 （TBS）	災害対応各論 「災害救助法」 中島直樹 （和歌山県）	災害対応総論（演習） 「イメージトレーニング」 矢守克也 （京都大）	
28日 （木）	災害対応総論 「BCP」 丸谷浩明 （東北大）	災害対応総論 「危機管理法制」 小宮大一郎 （内閣府）	災害対応各論 「自衛隊連携」 越野修三 （岩手大）	災害対応各論 「災害時要援護者」 田村圭子 （新潟大）	災害対応各論 「救援物資物流」 興村徹 （日通総研）
29日 （金）	災害対応各論 「ボランティア」 浦野愛 （RSY）	災害発生 のメカニズム 「都市巨大災害」 河田恵昭 （DRI）	災害対応総論 「応急期対応」 近藤伸也 （DRI）	災害対応各論 「広域連携」 近藤伸也 （DRI）	災害対応各論 「医療活動」 阿南英明 （藤沢市民病院）
2日 （月）	災害対応各論 「防災まちづくり」 吉川仁 （防災 & 都市づくり計画室）	災害対応各論 「インフラ」 能島暢呂 （岐阜大）	災害対応各論 「健康危機管理」 金谷泰宏 （国立保健医療科学院）	災害対応各論 「こころのケア」 大澤智子 （兵庫県こころのケアセンター）	災害発生 のメカニズム 「竜巻」 小野裕一 （東北大）
3日 （火）	災害対応各論 「都市復興」 中林一樹 （明治大）	組織マネジメント 「情報処理・情報共有」 浦川豪 （兵庫県立大）	防災の動き 「初動対応」 小滝晃 （前内閣府参事官）	組織マネジメント（演習） 「本部空間配置」 牧紀男 （京都大）	
4日 （水）	総合的防災演習 「エスノグラフィー」 重川希志依 田中聡（常葉大学）			総合的防災演習 「情報処理・対策本部運営演習」 牧紀男（京都大） 総合防災ソリューション	
5日 （木）	総合的防災演習 「情報処理・対策本部運営演習」 牧紀男（京都大） 総合防災ソリューション				
6日 （金）	災害対応各論（演習） 「災害対応演習」 石川永子 （DRI）		組織マネジメント 「組織マネジメント」 上野友也 （岐阜大）	「全体討論会」 中林一樹（明治大） 近藤伸也（DRI）	閉講式

第4四半期：平成26年2月4日（火）～3月7日（金）

防災一般コース：平成26年2月4日（火）～7日（金）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
4日 （火）	有明の丘基幹的広域防災拠点施設見学 （希望者のみ）	開講式 オリエンテーション	災害の社会的影響 「災害過程・被災者生活」 木村玲欧 （兵庫県立大）		災害発生のメカニズム 「地震と地震動被害」 額田一也 （東京大）
5日 （水）	防災対策の基礎 「危機管理総論」 吉井博明 （東京経済大）	災害発生のメカニズム 「地震と火災」 加藤孝明 （東京大）	災害発生のメカニズム 「風水害」 牛山素行 （静岡大）	防災対策の基礎 「防災情報システム」 小松幸夫 西岡徹	防災対策の基礎 「リスクコミュニケーション」 中谷内一也 （同志社大）
6日 （木）	防災対策の基礎 「災害法体系」 山崎栄一 （大分大）	組織マネジメント 「災害対策本部運営」 越山健治 （関西大）	防災対策の基礎 「災害情報」 宇田川真之 （DRI）	災害対応各論 「災害対応実務」 鍵屋一 （板橋区）	
7日 （金）	防災対策の基礎 「地域防災計画」 岩田孝仁 （静岡県）	防災対策の基礎 「大規模災害における行政対応の実態」 岩花竜章（清須市） 小松宏行（宮城県）		「全体討論会」 中林一樹 （明治大）	閉講式

幹部コース：平成26年2月12日（水）～13日（木）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
12日 （水）	有明の丘基幹的広域防災拠点施設見学 （希望者のみ）	開講式 オリエンテーション	災害対応各論 「災害対応実務」 鍵屋一 （板橋区）		災害対応総論 「広報」 福島隆史 （TBS）
13日 （木）	防災対策の基礎 「リスクコミュニケーション」 元吉忠寛 （関西大）	災害対応総論 「BCP」 丸谷浩明 （東北大）	組織マネジメント 「対応検討」 室崎益輝 （兵庫県立大）	組織マネジメント 「対応検討演習」 阪本真由美 （DRI）	閉講式

防災中堅コース：平成26年2月17日（月）～20日（木）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
17日 （月）	有明の丘基幹的広域防災拠点施設見学 （希望者のみ）	開講式 オリエンテーション	災害対応総論 「初期期対応」 高田洋介 （DRI）	災害対応業務・組織マネジメント 「本部空間配置」 元谷豊 （サイエンスクラフト）	
18日 （火）	防災対策の基礎 「災害情報」 宇田川真之 （DRI）	災害発生のメカニズム 「都市巨大災害」 河田恵昭 （DRI）	災害対応各論 「自衛隊連携」 越野修三 （岩手大）	災害対応総論 「地理空間情報活用方法」 浦川豪 （兵庫県立大）	
19日 （水）	災害対応総論 「応急期対応」 大原美保 （東京大）	災害対応各論 「災害時要援護者」 立木茂雄 （同志社大）	災害対応各論 「救援物資物流」 興村徹 （日通総研）	災害対応各論 「企業連携」 小野山正 （兵庫県）	災害対応各論 「医療活動」 阿南英明 （藤沢市民病院）

20日 (木)	災害対応各論 「防災まちづくり」 加藤孝明 (東京大)	災害対応各論 「災害救助法」 被災者行政担当 (内閣府)	「全体討論会」 中林一樹 (明治大)	閉講式
------------	--------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------	-----

総合コース：平成 26 年 2 月 24 日 (月) ～ 3 月 7 日 (金)

	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
24日 (月)	有明の丘基幹的広 域防災拠点 施設見学 (希望者のみ)	開講式 オリエンテーション	災害対応総論 「初動期対応」 高田洋介 (DRI)	災害対応総論 「地理空間情報活用方法」 浦川豪 (兵庫県立大)	
25日 (火)	災害対応総論 「復興法制」 事業推進担当 (内閣府)	災害対応各論 「ボランティア」 浦野愛 (レスキューストックヤード)	災害発生の メカニズム 「竜巻」 小野裕一 (東北大)	災害対応各論 「防災まちづくり」 目黒公郎 (東京大)	
26日 (水)	災害対応総論 「危機管理法制」 小宮大一郎 (内閣府)	災害対応総論 「BCP」 丸谷浩明 (東北大)	災害対応総論 「広報」 福島隆史 (TBS)	災害対応各論 「避難行動」 中森広道 (日本大)	災害対応各論 「救援物資物流」 興村徹 (日通総研)
27日 (木)	災害発生の メカニズム 「都市巨大災害」 河田恵昭 (DRI)	災害発生の メカニズム 「火山災害」 藤井敏嗣 (東京大)	災害対応各論 「広域連携」 阪本真由美 (DRI)	災害対応各論 「災害対応演習」 石川永子 (千葉大)	
28日 (金)	災害対応業務・組織マネジメント 「本部空間配置」 元谷豊 (サイエンスクラフト)		災害対応各論 「災害時交通対応」 中川大 (京都大)	災害対応総論 「業務フロー整理」 東田光裕 (防災デザイン研究会)	
3日 (月)	災害対応各論 「災害救助法」 被災者行政担当 (内閣府)	防災の動き 「初動・応急対応」 小滝晃 (前内閣府統括参事官)	災害対応各論 「自衛隊連携」 越野修三 (岩手大)	災害対応総論 「イメージトレーニング」 渥美公秀 (大阪大)	
4日 (火)	総合防災演習 「情報処理・対策本部運営演習」 総合防災ソリューション				
5日 (水)	総合防災演習 「情報処理・対策本部運営演習」 総合防災ソリューション		総合防災演習 「エスノグラフィー」 重川希志依 (常葉大)・田中聡 (常葉大)		
6日 (木)	災害対応各論 「健康危機管理」 金谷泰宏 (国立保険医療科学院)	災害対応各論 「こころのケア」 大澤智子 (兵庫県こころのケア センター)	災害対応各論 「医療活動」 阿南英明 (藤沢市民病院)	組織マネジメント 「理論」 熊丸由布治 (在日米陸軍消防本部)	災害対応各論 「避難所運営」 田村圭子 (新潟大)
7日 (金)	災害発生の メカニズム 「津波」 佐藤慎司 (東京大)	災害対応各論 「インフラ」 庄司学 (筑波大)	災害対応各論 「都市復興」 中林一樹 (明治大)	「全体討論会」 中林一樹 (明治大)	閉講式



参考資料 9

センター刊行物

(1) DRI 調査研究レポート

- ・平成 25 年度 研究論文・報告集、DRI 調査研究レポート Vol.31 2013-1

(2) DRI 調査レポート

- ・平成 25 年 4 月淡路島付近を震源とする地震調査報告（速報）(No.32 2013 年 4 月)
- ・平成 25 年 7 月山口島根豪雨現地調査報告（速報）(No.33 2013 年 8 月)
- ・平成 25 年台風 18 号現地調査報告（速報）(No.34 2013 年 9 月)
- ・平成 25 年台風第 26 号による伊豆大島における土砂災害現地調査報告（速報）(No.35 2013 年 10 月)
- ・平成 25 年台風 30 号 (Haiyan) フィリピン現地調査報告（速報）(No.36 2013 年 12 月)
- ・平成 26 年豪雪による被害の現地調査報告（速報）(No.37 2014 年 2 月)

(3) 資料室ニュース (Vol.51 ～ 53)

(4) その他

- ・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース Hem21(Vol.39 ～ 44)
- ・研究レター Hem21 Opinion
 - 平成 25 年 7 月号 (小林 郁雄 上級研究員)
 - 平成 25 年 9 月号 (矢守 克也 上級研究員)
 - 平成 26 年 1 月号 (福和 伸夫 上級研究員)
 - 平成 26 年 3 月号 (大木 健一 副センター長)